



## CHAPTER 2

### はじめに

この章では、コマンドライン インターフェイスへのアクセス方法、ファイアウォール モードの設定方法、およびコンフィギュレーションの処理方法について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「プラットフォーム モデルの準備」 (P.2-1)
- 「工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーション」 (P.2-1)
- 「コマンドライン インターフェイスへのアクセス」 (P.2-5)
- 「トランスペアレントまたはルーテッド ファイアウォール モードの設定」 (P.2-6)
- 「コンフィギュレーションの処理」 (P.2-6)

### プラットフォーム モデルの準備

このマニュアルは、複数のセキュリティ アプライアンス プラットフォームとモデル (PIX 500 シリーズセキュリティ アプライアンスと ASA 5500 シリーズ適応型セキュリティ アプライアンス) に利用できます。PIX と ASA セキュリティ アプライアンス間には、いくつかのハードウェアの相違があります。さらに、ASA 5505 には組み込みスイッチが含まれており、いくつかの特別なコンフィギュレーションが必要となります。これらのハードウェア関連の相違については、サポートされているプラットフォームまたはモデルが各項に直接記載されています。

一部のモデルでは、このマニュアルで紹介する機能の中で、サポートしていないものもあります。たとえば、ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスは、セキュリティ コンテキストをサポートしていません。このマニュアルでは、機能について説明するときにサポートされている各モデルが一覧表示されていない場合があります。設定をはじめる前に、お客様のモデルでサポートされている機能を確認するには、「サポートされているプラットフォームと機能」 (P.A-1) の、各モデルでサポートされている機能の一覧を参照してください。

### 工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーション

出荷時のデフォルトのコンフィギュレーションは、シスコが新しいセキュリティ アプライアンスに適用しているコンフィギュレーションです。工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションは、PIX 525 と PIX 535 の各セキュリティ アプライアンスを除くすべてのモデルでサポートされています。

PIX 515/515E と ASA 5510 以降のセキュリティ アプライアンスの場合、工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションにより、管理用のインターフェイスが設定され、ASDM を使用して接続できます。このインターフェイスを使用して、コンフィギュレーションを完了できます。

ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスの場合、工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションにより、インターフェイスと NAT が設定され、セキュリティ アプライアンスをすぐにネットワークで使用できます。

工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションは、ルーテッド ファイアウォール モードとシングル コンテキスト モードだけで使用できます。マルチ コンテキスト モードの詳細については、第 3 章「マルチ コンテキスト モードのイネーブル化」を参照してください。ルーテッドおよびトランスペアレント ファイアウォール モードの詳細については、「トランスペアレントまたはルーテッド ファイアウォール モードの設定」(P.2-6) を参照してください。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションの復元」(P.2-2)
- 「ASA 5505 のデフォルト コンフィギュレーション」(P.2-2)
- 「ASA 5510 以降のデフォルト コンフィギュレーション」(P.2-4)
- 「PIX 515/515E のデフォルト コンフィギュレーション」(P.2-4)

## 工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションの復元

工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションを復元するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# configure factory-default [ip_address [mask]]
```

*ip\_address* を指定する場合は、デフォルトの IP アドレス 192.168.1.1 を使用する代わりに、お使いのモデルに応じて、内部または管理インターフェイスの IP アドレスを設定します。**http** コマンドでは、指定するサブネットが使用されます。同様に、**dhcpd address** コマンドの範囲は、指定したサブネット内のアドレスで構成されます。

出荷時のデフォルトのコンフィギュレーションに戻した後に、**write memory** コマンドを使用してこのコンフィギュレーションを内部フラッシュ メモリに保存します。**write memory** コマンドは、前に **boot config** コマンドで別の場所を設定している場合でも、その設定をクリアしたときにパスもクリアされているので、スタートアップ コンフィギュレーション用のデフォルトの場所を実行コンフィギュレーションを保存します。



(注)

このコマンドは、**boot system** コマンド (存在する場合) も、他のコンフィギュレーションとともにクリアします。**boot system** を使用すると、外部フラッシュ メモリ カードのイメージを含む特定のイメージからブートできます。出荷時のコンフィギュレーションに戻した後、次回セキュリティ アプライアンスをリロードすると、セキュリティ アプライアンスは、内部フラッシュ メモリの最初のイメージからブートします。内部フラッシュ メモリにイメージがない場合、はブートしません。

完全なコンフィギュレーションに有用な追加の設定を行うには、**setup** コマンドを参照してください。

## ASA 5505 のデフォルト コンフィギュレーション

ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスの出荷時のデフォルトのコンフィギュレーションによって、次のように設定されます。

- イーサネット 0/1 ~ 0/7 スイッチ ポートを含む内部 VLAN 1 インターフェイス。**configure factory-default** コマンドで IP アドレスを設定していない場合、VLAN 1 の IP アドレスとマスクは、それぞれ 192.168.1.1 と 255.255.255.0 になります。
- イーサネット 0/0 スイッチ ポートを含む外部 VLAN 2 インターフェイス。VLAN 2 は、DHCP を使用してその IP アドレスを取得します。

- デフォルトのルートも DHCP から取得されます。
- すべての内部 IP アドレスが、外部にアクセスするときにインターフェイス PAT によって変換されます。
- デフォルトでは、内部ユーザはアクセス リストを使用して外部にアクセスでき、外部ユーザは内部にアクセスできません。
- セキュリティ アプライアンスで DHCP サーバがイネーブルになっているため、VLAN 1 インターフェイスに接続している PC は、192.168.1.2 ~ 192.168.1.254 のアドレスを受け取ります。
- ASDM 用に HTTP サーバがイネーブルにされており、192.168.1.0 ネットワーク上のユーザからアクセスできます。

このコンフィギュレーションは次のコマンドで構成されています。

```
interface Ethernet 0/0
  switchport access vlan 2
  no shutdown
interface Ethernet 0/1
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/2
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/3
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/4
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/5
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/6
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface Ethernet 0/7
  switchport access vlan 1
  no shutdown
interface vlan2
  nameif outside
  no shutdown
  ip address dhcp setroute
interface vlan1
  nameif inside
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
  security-level 100
  no shutdown
global (outside) 1 interface
nat (inside) 1 0 0
http server enable
http 192.168.1.0 255.255.255.0 inside
dhcpd address 192.168.1.2-192.168.1.254 inside
dhcpd auto_config outside
dhcpd enable inside
logging asdm informational
```

## ASA 5510 以降のデフォルト コンフィギュレーション

ASA 5510 以上の適応型セキュリティ アプライアンスの出荷時のデフォルトのコンフィギュレーションによって、次のように設定されます。

- 管理インターフェイスは Management 0/0 です。**configure factory-default** コマンドで IP アドレスを設定しなかった場合、IP アドレスおよびマスクは 192.168.1.1 および 255.255.255.0 です。
- セキュリティ アプライアンスでは DHCP サーバがイネーブルにされているため、このインターフェイスに接続する PC には、192.168.1.2 ~ 192.168.1.254 の間のアドレスが割り当てられます。
- ASDM 用に HTTP サーバがイネーブルにされており、192.168.1.0 ネットワーク上のユーザからアクセスできます。

このコンフィギュレーションは次のコマンドで構成されています。

```
interface management 0/0
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
  nameif management
  security-level 100
  no shutdown
asdm logging informational 100
asdm history enable
http server enable
http 192.168.1.0 255.255.255.0 management
dhcpd address 192.168.1.2-192.168.1.254 management
dhcpd lease 3600
dhcpd ping_timeout 750
dhcpd enable management
```

## PIX 515/515E のデフォルト コンフィギュレーション

PIX 515/515E セキュリティ アプライアンスの出荷時のデフォルトのコンフィギュレーションによって、次のように設定されます。

- 内部 Ethernet1 インターフェイス。**configure factory-default** コマンドで IP アドレスを設定しなかった場合、IP アドレスおよびマスクは 192.168.1.1 および 255.255.255.0 です。
- セキュリティ アプライアンスでは DHCP サーバがイネーブルにされているため、このインターフェイスに接続する PC には、192.168.1.2 ~ 192.168.1.254 の間のアドレスが割り当てられます。
- ASDM 用に HTTP サーバがイネーブルにされており、192.168.1.0 ネットワーク上のユーザからアクセスできます。

このコンフィギュレーションは次のコマンドで構成されています。

```
interface ethernet 1
  ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
  nameif management
  security-level 100
  no shutdown
asdm logging informational 100
asdm history enable
http server enable
http 192.168.1.0 255.255.255.0 management
dhcpd address 192.168.1.2-192.168.1.254 management
dhcpd lease 3600
dhcpd ping_timeout 750
dhcpd enable management
```

# コマンドライン インターフェイスへのアクセス

初期コンフィギュレーションでは、コンソールポートから直接コマンドライン インターフェイスにアクセスします。その後は、第40章「システム アクセスの管理」の方法によって Telnet または SSH を使用してリモート アクセスを設定できます。システムがすでにマルチ コンテキスト モードで動作している場合は、コンソールポートにアクセスするとシステムの実行スペースに入ります。マルチ コンテキスト モードの詳細については、第3章「マルチ コンテキスト モードのイネーブル化」を参照してください。



(注)

コマンドライン インターフェイスの代わりに、ASDM を使用してセキュリティ アプライアンスを設定する場合、デフォルトの管理アドレス 192.168.1.1 に接続することができます（セキュリティ アプライアンスに工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションが含まれている場合。「工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーション」(P.2-1) を参照してください）。ASA 5510 以降の適応型セキュリティ アプライアンスでは、ASDM と接続するインターフェイスは Management 0/0 です。ASA 5505 適応型セキュリティ アプライアンスの場合、ASDM で接続するスイッチ ポートは Ethernet 0/0 を除く任意のポートです。PIX 515/515E セキュリティ アプライアンスの場合、ASDM と接続するインターフェイスは Ethernet 1 です。工場出荷時のデフォルト コンフィギュレーションになっていない場合は、この項の手順に従い、コマンドライン インターフェイスにアクセスします。ここで **setup** コマンドを入力すると、ASDM にアクセスするための最小限のパラメータを設定できます。

コマンドライン インターフェイスにアクセスするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 付属のコンソール ケーブルを使用して PC をコンソールポートに接続します。ターミナルエミュレータを回線速度 9600 ボー、データビット 8、パリティなし、ストップビット 1、フロー制御なしに設定して、コンソールに接続します。

コンソール ケーブルの詳細については、セキュリティ アプライアンスに添付されているハードウェアガイドを参照してください。

**ステップ 2** Enter キーを押して、次のプロンプトが表示されることを確認します。

```
hostname>
```

このプロンプトは、ユーザ EXEC モードで作業していることを示します。

**ステップ 3** 特権 EXEC モードにアクセスするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname> enable
```

次のプロンプトが表示されます。

```
Password:
```

**ステップ 4** プロンプトに対して、イネーブルパスワードを入力します。

デフォルトではパスワードは空白に設定されているため、Enter キーを押して先に進みます。イネーブルパスワードの変更については、「イネーブル・パスワードの変更」(P.8-1) を参照してください。

プロンプトが次のように入力されます。

```
hostname#
```

特権モードを終了するには、**disable** コマンド、**exit** コマンド、または **quit** コマンドを入力します。

**ステップ 5** グローバル コンフィギュレーション モードにアクセスするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# configure terminal
```

プロンプトが次のように入力されます。

```
hostname(config)#
```

グローバル コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンド、**quit** コマンド、または **end** コマンドを入力します。

## トランスペアレントまたはルーテッド ファイアウォール モードの設定

セキュリティ アプライアンスは、ルーテッド ファイアウォール モード（デフォルト）またはトランスペアレント ファイアウォール モードで動作するように設定できます。

マルチ コンテキスト モードでは、すべてのコンテキストに対して1つのファイアウォール モードのみを使用できます。モードの設定は、システム実行スペースで行う必要があります。

多くのコマンドは両方のモードではサポートされていないため、モードを変更した場合は、セキュリティ アプライアンスによってコンフィギュレーションがクリアされます。設定済みのコンフィギュレーションがある場合は、モードを変更する前にコンフィギュレーションをバックアップしてください。新しいコンフィギュレーション作成時の参照としてこのバックアップを使用できます。「[コンフィギュレーション ファイルのバックアップ](#)」(P.41-9)を参照してください。マルチ コンテキスト モードの場合、システム コンフィギュレーションが消去されます。このアクションにより、実行中のコンテキストが削除されます。その後、別のモード用に作成された既存のコンフィギュレーションがあるコンテキストを再度追加すると、そのコンテキスト コンフィギュレーションは正常に動作しません。正しいモード用のコンテキスト コンフィギュレーションを再作成してから、それらを再度追加するか、新しいコンフィギュレーション用の新しいパスがある新しいコンテキストを追加してください。

**firewall transparent** コマンドを使用してモードを変更するテキスト コンフィギュレーションをセキュリティ アプライアンスにダウンロードする場合は、このコマンドをコンフィギュレーションの先頭に配置します。先頭に配置することによって、セキュリティ アプライアンスでこのコマンドが読み込まれるとすぐにモードが変更され、その後引き続きダウンロードされたコンフィギュレーションが読み込まれます。コマンドをコンフィギュレーションの後の方に配置すると、コンフィギュレーション内のその位置よりも前にあるすべての行がセキュリティ アプライアンスによってクリアされます。テキスト ファイルのダウンロードの詳細については、「[フラッシュ メモリへのソフトウェアまたはコンフィギュレーション ファイルのダウンロード](#)」(P.41-3)を参照してください。

- トランスペアレント モードに設定するには、システム実行スペースで次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# firewall transparent
```

このコマンドは、各コンテキストのコンフィギュレーションにも情報提供の目的で表示されますが、このコマンドをコンテキストで入力することはできません。

- ルーテッド モードに設定するには、システム実行スペースで次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# no firewall transparent
```

## コンフィギュレーションの処理

この項では、コンフィギュレーションを処理する方法について説明します。セキュリティ アプライアンスは、スタートアップ コンフィギュレーションと呼ばれるコンフィギュレーションをテキスト ファイルからロードします。このファイルは、デフォルトでは隠しファイルとして内部フラッシュ メモリ

に常駐しています。ただし、ユーザはスタートアップ コンフィギュレーションに異なるパスを指定することができます（詳細については、第 41 章「ソフトウェア、ライセンス、および設定の管理」を参照してください）。

コマンドを入力すると、メモリ上の実行コンフィギュレーションに対してだけ変更が適用されます。変更内容をリブート後も維持するには、実行コンフィギュレーションを手動でスタートアップ コンフィギュレーションに保存する必要があります。

この項で説明する内容は、特に指定がない限り、シングル モードとマルチ モードの両セキュリティ コンテキストに適用されます。コンテキストの詳細については、第 3 章「マルチ コンテキスト モードのイネーブル化」を参照してください。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「変更した設定の保存」(P.2-7)
- 「スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピー」(P.2-9)
- 「コンフィギュレーションの表示」(P.2-9)
- 「コンフィギュレーション設定のクリアと削除」(P.2-9)
- 「テキスト コンフィギュレーション ファイルのオフラインでの作成」(P.2-10)

## 変更した設定の保存

この項では、コンフィギュレーションを保存する方法について説明します。次の項目を取り上げます。

- 「シングル コンテキスト モードでのコンフィギュレーションの変更の保存」(P.2-7)
- 「マルチ コンテキスト モードでのコンフィギュレーションの変更の保存」(P.2-7)

## シングル コンテキスト モードでのコンフィギュレーションの変更の保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# write memory
```



(注) `copy running-config startup-config` コマンドは、`write memory` コマンドに相当します。

## マルチ コンテキスト モードでのコンフィギュレーションの変更の保存

各コンテキスト（およびシステム）コンフィギュレーションを個別に保存することも、すべてのコンテキスト コンフィギュレーションを同時に保存することもできます。この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「各コンテキストとシステムの個別保存」(P.2-7)
- 「すべてのコンテキスト コンフィギュレーションの同時保存」(P.2-8)

### 各コンテキストとシステムの個別保存

システムまたはコンテキスト コンフィギュレーションを保存するには、システムまたはコンテキスト 内で次のコマンドを入力します。

```
hostname# write memory
```



(注) **copy running-config startup-config** コマンドは、**write memory** コマンドに相当します。

マルチ コンテキスト モードでは、コンテキストのスタートアップ コンフィギュレーションを外部サーバに置くことができます。この場合、そのコンフィギュレーションは、コンテキスト URL (HTTP URL および HTTPS URL を除く) に指定されているサーバにセキュリティ アプライアンスによって戻され、保存されるため、サーバにコンフィギュレーションを保存する必要はありません。

### すべてのコンテキスト コンフィギュレーションの同時保存

すべてのコンテキスト コンフィギュレーション、およびシステム コンフィギュレーションを同時に保存するには、システム実行スペースで次のコマンドを入力します。

```
hostname# write memory all [/noconfirm]
```

**/noconfirm** キーワードを入力しない場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Are you sure [Y/N]:
```

**Y** を入力すると、セキュリティ アプライアンスによってシステム コンフィギュレーションと各コンテキストが保存されます。コンテキストのスタートアップ コンフィギュレーションは、外部サーバに配置できます。この場合、そのコンフィギュレーションは、コンテキスト URL (HTTP URL および HTTPS URL を除く) に指定されているサーバにセキュリティ アプライアンスによって戻され、保存されるため、サーバにコンフィギュレーションを保存する必要はありません。

セキュリティ アプライアンスによって各コンテキストが保存されると、次のメッセージが表示されません。

```
'Saving context 'b' ... ( 1/3 contexts saved ) '
```

エラーのためにコンテキストが保存されない場合もあります。エラーについては、次の情報を参照してください。

- メモリ不足のためにコンテキストが保存されない場合は、次のメッセージが表示されます。  
The context 'context a' could not be saved due to Unavailability of resources
- リモートの宛先に到達できないためにコンテキストが保存されない場合は、次のメッセージが表示されます。  
The context 'context a' could not be saved due to non-reachability of destination
- コンテキストがロックされているために保存されない場合は、次のメッセージが表示されます。  
Unable to save the configuration for the following contexts as these contexts are locked.  
context 'a' , context 'x' , context 'z' .  
  
コンテキストがロックされるのは、別のユーザがすでにコンフィギュレーションを保存している場合、またはコンテキストを削除している場合のみです。
- スタートアップ コンフィギュレーションが読み取り専用であるために (たとえば、HTTP サーバで) コンテキストが保存されない場合は、他のすべてのメッセージの最後に次のメッセージ レポートが出力されます。  
Unable to save the configuration for the following contexts as these contexts have read-only config-urls:  
context 'a' , context 'b' , context 'c' .
- フラッシュ メモリに不良セクターがあるためにコンテキストが保存されない場合は、次のメッセージが表示されます。



```
The context 'context a' could not be saved due to Unknown errors
```

## スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピー

次のいずれかのオプションを使用して、新規スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーします。

- 実行コンフィギュレーションでスタートアップ コンフィギュレーションをマージするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# copy startup-config running-config
```

マージによって、新しいコンフィギュレーションから実行コンフィギュレーションに新しいコマンドが追加されます。コンフィギュレーションが同じ場合、変更は発生しません。コマンドが衝突する場合、またはコマンドがコンテキストの実行に影響を与える場合、マージの結果はコマンドによって異なります。エラーが発生することも、予期できない結果が生じることもあります。

- スタートアップ コンフィギュレーションをロードして実行コンフィギュレーションを廃棄するには、次のコマンドを入力してセキュリティ アプライアンス を再起動します。

```
hostname# reload
```

次のコマンドを使用してスタートアップ コンフィギュレーションをロードし、再起動せずに実行コンフィギュレーションを廃棄することもできます。

```
hostname/contexta(config)# clear configure all  
hostname/contexta(config)# copy startup-config running-config
```

## コンフィギュレーションの表示

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、次のコマンドを使用します。

- 実行コンフィギュレーションを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# show running-config
```

- 特定コマンドの実行コンフィギュレーションを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# show running-config command
```

- スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# show startup-config
```

## コンフィギュレーション設定のクリアと削除

設定を消去するには、次のいずれかのコマンドを入力します。

- 指定したコマンドのすべての設定を消去するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# clear configure configurationcommand [level2configurationcommand]
```

このコマンドによって、指定したコンフィギュレーション コマンドの現在のすべての設定が消去されます。コマンドの特定バージョンのコンフィギュレーションだけをクリアする場合は、*level2configurationcommand* に値を入力します。

たとえば、すべての **aaa** コマンドのコンフィギュレーションをクリアするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# clear configure aaa
```

**aaa authentication** コマンドのコンフィギュレーションだけをクリアするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# clear configure aaa authentication
```

- コマンドの特定のパラメータまたはオプションをディセーブルにするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# no configurationcommand [level2configurationcommand] qualifier
```

この場合、**no** コマンドを使用して、*qualifier* で特定されるコンフィギュレーションを削除します。

たとえば、特定の **nat** コマンドを削除するには、次のように、それを一意に識別するのに十分なコマンドを入力します。

```
hostname(config)# no nat (inside) 1
```

- スタートアップ コンフィギュレーションを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# write erase
```

- 実行コンフィギュレーションを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# clear configure all
```



**(注)** マルチ コンテキスト モードでは、システム コンフィギュレーションから **clear configure all** を入力すると、すべてのコンテキストを削除し、実行中のコンフィギュレーションを停止することにもなります。

## テキスト コンフィギュレーション ファイルのオフラインでの作成

このマニュアルでは、セキュリティ アプライアンスを設定するための CLI の使用方法について説明しています。コマンドを保存すると、変更内容はテキスト ファイルに書き込まれます。一方、CLI を使用する代わりに、テキスト ファイルを PC で直接編集して、コンフィギュレーション モードのコマンドライン プロンプトから、コンフィギュレーションを全部または 1 行ずつペーストすることができます。セキュリティ アプライアンス の内部フラッシュ メモリにテキスト ファイルをダウンロードすることもできます。コンフィギュレーション ファイルをセキュリティ アプライアンスにダウンロードする方法の詳細については、[第 41 章「ソフトウェア、ライセンス、および設定の管理」](#)を参照してください。

ほとんどの場合、このマニュアルで説明するコマンドには、CLI プロンプトが先行します。次の例では、CLI プロンプトは「hostname(config)#」です。

```
hostname(config)# context a
```

コマンドの入力が要求されないテキスト コンフィギュレーション ファイルの場合は、プロンプトは次のように省略されます。

```
context a
```

テキスト コンフィギュレーション ファイルのフォーマットの詳細については、[付録 C 「コマンドライン インターフェイスの使用」](#) を参照してください。

